

## 首都圏の物流新拠点「浦和美園配送センター」稼働

### — 首都圏の物流体制の更なる強化 —

- 最先端のDX施策でスマートロジスティクス推進 —
- さいたま市SDGs企業認証制度<sup>※1</sup>取得を目指す —



サントリーロジスティクス（株）は、新しい物流拠点「浦和美園配送センター」を11月から稼働しました。

人手不足、働き方改革への取り組み、さらなる物量の増加など、物流をとりまく環境は大きく変化しており、持続可能な物流への取り組みは、大変重要な課題となっています。当社はこれまで、安全・安心な物流の実現に加え、先端技術を活用し、物流業務の自動化・省力化による労働負荷軽減、作業効率化、環境負荷の低減などを実現する「スマートロジスティクス」に取り組んできました。

「浦和美園配送センター」の稼働により、これまで複数箇所に分散していた倉庫機能を本倉庫に統合集約し、在庫配置や倉庫間移動の効率化を図り、環境負荷低減を推進します。

本センターではデジタルトランスフォーメーション（DX）施策として、在庫管理システム<sup>※2</sup>を基軸に各種業務システム間で情報を連携し、乗務員・倉庫荷役の負荷軽減と省力化を図っています。なかでも自動運転フォークリフト（Automated Guided Forklift、以下AGF）とコンベアを組み合わせたシステム<sup>※3</sup>では、AGF専用のエリアを設け人との接触を回避し、安全を確保しながら、有人の作業同等のパフォーマンスを実現。AGFエリアにおいては有人の作業を想定した場合と比較し、工数を約30%削減できる見込みです。

他にも無人受付システムやバス予約システム、AI技術を搭載した仕組み<sup>※4</sup>などを導入しており、全体では従来の技術を導入した場合と比較し、工数を約15%削減できる見込みです。

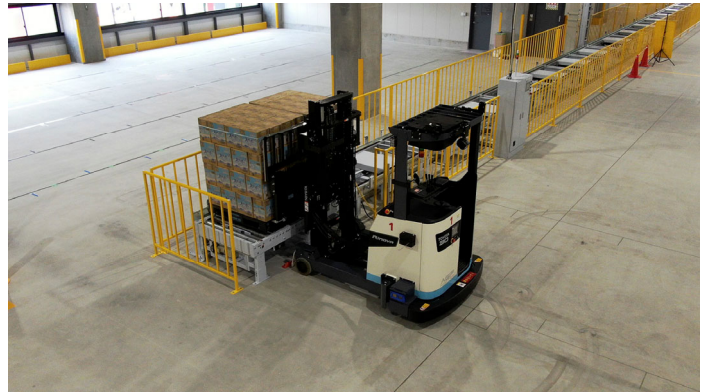
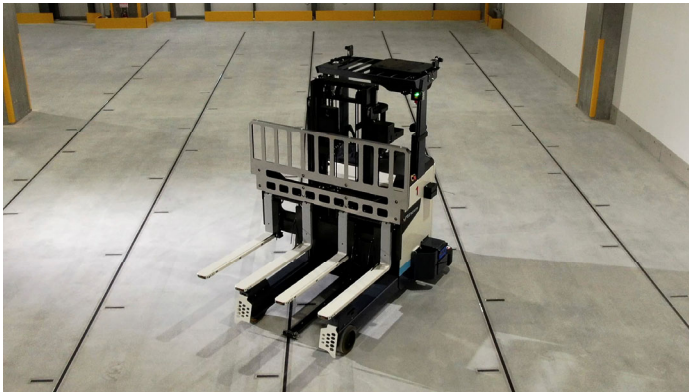
また本センターでは、DX施策による省力化に加え、フォークリフトにリチウムイオン電池・再生可能バッテリーを活用するなどの温室効果ガス排出量削減にも取り組み、現在、さいたま市SDGs企業認証制度の取得を目指しています。

サントリーグループは、今後も持続可能な物流の実現に向けて、物流最適化・環境負荷低減・働き方改革の推進などのさらなる取り組みを、パートナー企業・地域行政との連携を深めながら進めていきます。

- ※1 SDGsの理念を尊重しながら、経済・社会・環境の3つの分野を意識した経営活動を推進する市内企業を、さいたま市が認証する制度
- ※2 日本ユニシス（株）が提供する倉庫管理ソリューション
- ※3 （株）豊田自動織機と当社が共同設計。現在サントリーホールディングス（株）から特許出願中
- ※4 富士通（株）と当社が共同開発。現在富士通（株）とサントリーホールディングス（株）が連名で特許出願中

— 記 —

名称	浦和美園配送センター
所在地	〒336-0967 埼玉県さいたま市緑区美園1-14
延床面積	約1万2千坪（5階建倉庫の3～5階）
竣工・稼働開始	2021年11月
取り扱い商品	清涼飲料、酒類各種、他



以上

〔本件に関する問い合わせ先〕

サントリーロジスティクス株式会社 経営企画部 広報担当

Tel: 03-6809-5790 Fax: 03-6453-8453

中村 Mail: godai\_nakamura@suntorylogistics.co.jp 青羽 Mail: keisuke\_aoba@suntorylogistics.co.jp

SUNTORY LOGISTICS  
SUNTORY